

# 企業ニュース 不二製油グループ本社

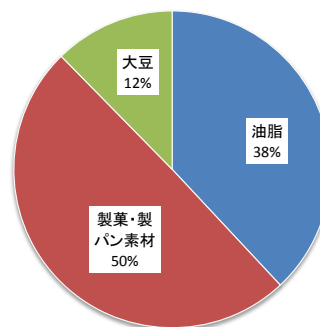
(東証1部：2607) <http://www.fujioilholdings.com>

作成者：兵藤三郎

## B2B2Cビジネスを展開する食品メーカー

1950年、伊藤忠（8001）の全額出資により不二蚕糸の製油工場を買収し、不二製油設立。2015年、持ち株会社体制に移行し、現在の社名に商号変更した。「私たち不二製油グループは、食の素材の可能性を追求し、食の喜びと健康に貢献します」をミッション（不二製油グループ憲法より）として掲げ、B2B2Cビジネスを展開している。チョコレート用油脂では世界TOP3（販売数量ベース）の一角を占める。その他、ホイップクリーム、マーガリン・ショートニング等の製菓・製パン素材や大豆たん白素材なども扱っている。11月19日、業務用チョコレート大手の米国Blommer社の買収を発表した（買収完了予定2019年1月）。買収完了により、北米での競争力強化や原料調達における購買力の向上などのシナジーが期待できよう。

◇18.3期売上高構成比



(出所) 不二製油グループ本社資料よりCAM作成

## 事業環境は底打ちから反転を期待

19.3期・第2四半期累計（4-9月）の連結業績は売上高が1,471億円、前年同期比2%減、営業利益が95億円、同1%増。アジアでの調整品採算悪化などで会社計画を営業利益で2億円下回った。高付加価値品への注力で補ったが、猛暑（チョコレート需要減）や北海道地震など（インバウンド向け需要減）の影響を受けた。

19.3期連結業績の会社計画は、売上高が3,120億円、前期比1%増、営業利益が213億円、同4%増。足元の動向を勘案し、売上高を100億円減額したが、調整品などの苦戦を国内や欧州での採算改善などでカバーし営業利益は据え置いた。調整品の影響は残るが第2四半期をボトムに改善傾向にある模様。7月に稼働した中国新工場の収益貢献も期待できよう。原料価格などの市況動向には注視が必要だが、インバウンド需要は回復傾向にあり通期計画の達成は可能であろう。11月19日に発表した大型M&Aは、今期業績へのインパクトは乏しいが、中期的なシナジー効果が期待できる案件となる。

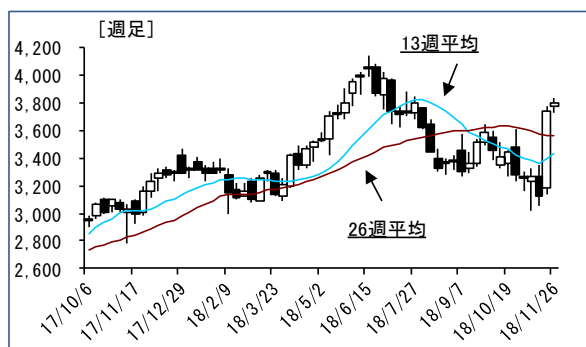
## [株価動向・投資判断]

グローバル展開、チョコレート油脂事業拡大などの施策効果による収益拡大を評価したい。中期的には発表された大型M&Aによるシナジー効果も期待できよう。

<2607 不二製油G 業績:日本基準>

[今期予想の配当金は発行会社予想]

	売上高		営業利益		経常利益		当期利益		1株利益		1株配当	
	百万円 (伸び率)		百万円 (伸び率)		百万円 (伸び率)		百万円 (伸び率)		円		円	
17.3	292,547	( 2)	19,694	( 17)	19,712	( 40)	12,105	( 31)	140.8		44.00	
18.3	307,645	( 5)	20,481	( 4)	19,983	( 1)	13,742	( 14)	159.9		48.00	
19.3 予	312,000	( 1)	21,300	( 4)	20,700	( 4)	14,000	( 2)	162.9		50.00	



[主要株価指標] (売買単位：100株)

株価(2018/11/26)	3,800 円
年初来高値(高値日)	4,140 円(18/6/11)
同 安値(安値日)	3,000 円(18/2/7)
予想 P E R (19.3 予)	23.3 倍
1株株主資本(PBR算出用)	1,797.5 円
P B R	2.11 倍
予想配当利回り	1.32 %
(1株当たり配当金50.00円)	
R O E (18.3)	8.8 %
発行済み株式数	8,757 万株